

経営のヒント51 荀子と孟子

〜〜性善説と性悪説〜〜

荀子の生きていた時代(紀元前4世紀)は、春秋の末期であり、当時は政治は腐敗しきっていた。次から次に国が滅び、暴君が生まれた。かれらは本来の道を忘れて占いに凝り、俗物儒者などが蔓延り、人々を惑わせていた。かくて、儒家、墨家、道家の実績と歩みを振り返り、系統的に纏め上げた。

荀子は孟子より60〜70年遅れて生まれたようだ。ことごとく対照的な二人である。儒家という一つの土俵で見た場合、孟子が儒家の理想的、感情的な面を代表しているのに対して、荀子は儒家の知的、実践的な面を代表していると言えます。

人間の本性を善と見るか悪と見るか、人間の相反する側面の一方を出発点とする議論の違いは、二人の性格、生き方の違いであろう。

孟子は理想主義。

荀子は現実主義だった。

現実批判から知的、実践的に論理的、合理的な考えが特徴である。

性悪説は、荀子の思想の基幹をなすものである。

人はだれでも、利益を追い、快楽を求めようとする側面を持っている。現実社会が秩序を失い、人々が苦痛をかみしめているのは、この側面ばかりが成長したからだ、と主張した。

孟子のいう天性は心を意味し、善悪は道徳的な価値を意味した。

荀子のいう天性は欲望を意味し、善悪は社会秩序の治乱を意味した。

人間の天性は悪だが、後天的努力、つまり、人為を積み重ねることによって矯正できる。

天性を矯正する能力は、どんな人にも平等にある。

その能力を十分に発揮しさえすれば、いかなる凡人でも聖人になれる。かれはそう考えた。

天性に外から手を加えること、それは教育である。

当然、荀子は教育を重視した。

では、努力といっても、何に向かって努力すればいいのか？

それは、礼・義の実践に努めるのだ、と荀子は言う。

礼・義は人間がしたがう最高の規範であり、人を教化する手段であった。

孔子は仁を強調し、孟子は仁・義を強調した。それらは全て人間の内面に発する要素であり、天命に通じるものであった。それに対して、荀子の礼・義は外圧的な規定である。

人間の集団生活を円滑にするために外圧的な規定によって性情の赴く方向を変えようというのだ。

つまりは、礼・義の意味は、ほとんど法律に近い。

皆さん、いかがですか？

荀子と孟子、相反する考え方。

私は荀子の現実を直視する姿勢・考え方に共感を感じます。

組織には、ルールが必要。

つまりは、環境とその人の努力次第によって人間の可能性を伸ばすことが出来る。